


TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 2/18  ベルブホール (ベルブ永山5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

フランス、郊外の団地。不器用な男女の出逢いと奇跡のストーリー

上映スケジュール

アスファルト

監督・脚本：サミュエル・ベンシェトリ
2015年/100分/カラー/フランス

10:30 — 12:10 第1回上映
13:00 — 14:40 第2回上映
16:00 — 17:40 第3回上映
18:30 — 20:10 第4回上映

チケット料金

前売 大人(中学生以上) 1,000円
当日 大人(中学生以上) 1,200円
子ども(4歳~小学生) 600円

(TAMA映画フォーラム支援会員、障がい者と
その付添者1名は当日600円です)

- *全席自由席・各回入替制
- *開場は各回15分前
- *上映時間は変更になる場合があります。



© 2015 La Camera Deluxe - Maje Productions - Single Man Productions - Jack Stern Productions
- Emotions Films UK - Movie Pictures - Film Factory

企画者からのメッセージ

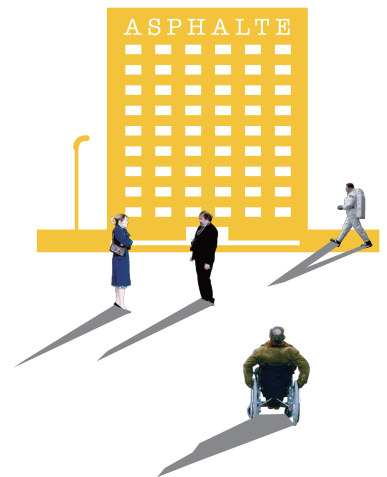
今年度1回目の特別上映会は、寒い冬にちょっと心が暖くなる3組の男女の出逢いと奇跡のストーリーです。

フランス郊外の団地、車椅子の自称カメラマンと夜勤の看護師、鍵っ子の高校生と落ちぶれた女優、英語が通じない移民の女性とNASAの宇宙飛行士。

何の繋がりもなかった3組の男女が偶然の出逢いから心を通わせていく。おずおずと手探りで空回りしながら、ちょっとビターなエッセンスを振りまきながら。

自然な佇まいを演じる俳優陣。先日第74回ゴールデングローブ賞ドラマ部門で主演女優賞を受賞したイザベル・ユペール、飄々と彼女をナビゲートしていく注目の新人ジュール・ベンシェトリ。ハリウッドから舞い降りたマイケル・ピット、彼をクスクスでもてなすタサディット・マンディのいたずらっぽい瞳。必死で車椅子をこぐギユスタヴ・ケルヴァンにおずおずと心を開いていくヴァレリア・ブルーニ・テデスキ。

飾らないそれぞれの演技がエンディングの奇跡を優しく醸していく。素敵な素敵な映画です。(竹内昇)





実行委員のおススメ映画コーナー

『この世界の片隅に』（片渕須直監督 / 2016年）

戦前から戦後までの広島を舞台に主人公すずさんの日常を描くアニメーション映画で、昨年の公開からじわじわと上映館を拡大中だ。ひとくちに戦争映画とは言い切れない、「人」の魅力が詰まった映画だ。

まだ戦争の兆しもない頃のすずさんの幼少期が印象に残った。戦前の日常は特に泣かせる場面でなくても泣けてくる。特にすずさんの描いた「波のうさぎ」の絵がスクリーンいっぱい映し出されたのがとても素敵でその躍動感に圧倒された。また、すずさんの天然っぷりは微笑ましく、生きる知恵も面白い。ただ、刻々と戦争へと向かっていくのが分かってしまうのが残酷だ。

すずさんが決して特別ではない一庶民だったからこそ、彼女の体験を通して自分事のように当時のことを考えることができた。戦時下にあっても人それぞれの生活があり、教科書で語られる戦争とは別にひとりひとりの戦争の体験や記憶もさまざまだったはずだ。戦争の記憶は語り継いでいかなければならない、とよく言われるが、その責任感を持つのは結構難しい。でも、戦前から戦後までを生き抜いたすずさんの物語はたくさんの人に知ってほしいと思えた。実際の防空壕の暗さを私は知らないが、この映画を映画館の暗闇で観ることに意味がある、と思った。

（矢野緋奈子）

『四畳半神話大系』（森見登美彦原作、湯浅政明監督 / 2010年テレビ放送）

あの時もし別の選択をしていれば今頃はもっと輝かしい毎日を過ごしていたのかもしれない。そんな思いを抱いた経験が誰しもあるのではないだろうか。

『四畳半神話大系』は、主人公「私」が京都・下鴨を舞台に毎話異なる世界線で「黒髪の乙女との薔薇色のキャンパスライフ」を実現すべく奔走する物語。それぞれの時間軸で彼は実にさまざまなサークルに入会していくが、毎度悪友・小津との出会いによって理想の大学生活は崩れ去り、「あの時、別のサークルを選んでいれば…」と過去の自分を責める。そんな饒舌に不満と後悔を垂れ流しつつもなんだかんだ楽しそうな主人公と、悪事ばかり働くのになぜか憎めない小津や一見冷酷だが主人公を気にかけている明石さんをはじめとする隣人たちとの切っても切れない縁は、回を追うごとに愛おしいものに思えてくる。

隣の畳もとい芝生は青いものだが、自分の芝生も俯瞰して見ると案外捨てたものではないのかもしれない。この作品を観ているとそういったことに気付かされる。

（関果林）

『時をかける少女』（細田守監督 / 2006年）

筒井康隆氏の原作は1967年に出版されたので、実に今年で「時かけ」50周年になる。

NHKの少年ドラマシリーズ『タイムトラベラー』（1972）でのドラマ化以来、高評価な大林監督の映画やドラマでも数度、さらには舞台化までされており、昨年の夏にも改めてテレビドラマ化された（余談だが、その際に「またアニメの実写化か」と思った人が多数いたらしい）。

それらの映像化作品のなかでも細田守監督による2006年のアニメーションバージョンは多くの人の心に残る作品となっているのではないだろうか。2006年時の公開規模は小さかったが、口コミで多くの観客を集め、公開規模も徐々に広がりロングランを記録した。

昨年夏、公開後10周年ということで、映画の中の舞台のひとつになっている東京国立博物館で野外上映が行われ、6000人以上の人が集まった。途中で映像が2回止まるアクシデントもあったが、どちらも主人公真琴がタイムリープするシーンで、特に2回目はもう一度飛べるようになった真琴が最後のタイムリープをする瞬間に映像が止まるというナイス(?)なタイミングであったためか、客席は大変盛り上がった。上映後には主題歌を歌った奥華子さんのライブも行われた。折にふれ観返したい作品の一本である。

（吉野 治）

社会現象とも言える大ヒットとなった『君の名は。』や絶賛公開中の『この世界の片隅に』など、多彩なアニメーション映画が公開されています。ここでは実行委員のおススメのアニメーション作品を紹介いたします。ネタバレもありですのでご注意ください。

『ガールズアンドパンツァー 劇場版』 (水島努監督 / 2015 年)

「戦車道」という言葉をご存知でしょうか。「高速自動車道」じゃありませんよ、この言葉がこの作品の世界観を端的に表しています。そう、「戦車道」とは、戦車に乗って模擬弾を撃ち合い、戦車で市街地を爆走する、主に女子の嗜む武道というかスポーツ、それが「戦車道」です。聞いているだけで正気を疑う内容ですが、これがこの作品の根幹を成しています。まさしくアニメの中だけでしか見られない世界。

この作品はそんな世界を心の底から堪能できます。特に劇場版では、音響面を中心に戦車の挙動にこだわった描写が深められ、走る戦車の履帯(キャタピラ)がアスファルトとこすれる音、戦車ごとに異なる反響音、砲撃音の距離の差など、客観的にみるとトンデモナイ情景を逆にリアリティにこだわった描写で作りあげています。もう、この世界はありのまま受け入れて全肯定するしか、ありません。唱えましょう。ただ一言、「ガルパンはいいぞ」と……。

最終章と銘打った次回作も発表されました。劇場版の聖地と化した立川ではちよくちよく上映されています。少しでも興味があれば是非。(友寄和宣)

『四畳半神話大系』 (森見登美彦原作、湯浅政明監督 / 2010 年テレビ放送)

京都にある下鴨神社は通称である。正式名称は賀茂御祖神社(かもみおやじんじゃ)と言う。

御祭神は京都を拓いたとされる賀茂建角身命(かもたけつぬみのみこと)で八咫鳥の化身とも言われる神様と、その娘である玉依姫命(たまよりひめのみこと)である。そしてこの神社よりほど近くの下鴨幽水荘と言うオンボロ寮に住むのがこの森見登美彦原作の四畳半神話大系の主人公【私】である。

物語は【私】が大学に入学し、どのサークルを選ぶかによりどう変わるか並行世界で物語が進んでいく。

湯浅政明監督の独特の絵、独特の背景、独特のタッチ、独特の世界観で話は進んでいく。細かい伏線も最初から張られていて最後まで「次回はどうなるの?」と楽しく観れた。

特に終盤の10話・11話を四畳半という深遠なる宇宙が壮大なカストロフィーへと向かっていく……と思ったら最後は見事な豪腕でまとめ切り、全てにほんわかした結末にまとめる。

ああ、ぼくの明石さんはどこにいるのかなあ(笑)

さて、そう言えばこれは映画祭の会報であったが四畳半神話大系は映画ではない……が、今年の4月に森見登美彦原作で四畳半神話大系のスタッフが再結集しての映画が上映される。

『夜は短し歩けよ乙女』主題歌は四畳半神話大系と同じくアジアカンパニージェネレーション。大変に楽しみである!! (青木康至)

『風立ちぬ』 (宮崎駿監督 / 2013 年)

少年が夢を追いかけたその時代、世界は戦争に突き進んでいた。零戦の設計者として知られる堀越二郎。彼は空への憧れを追求して民間企業の技術者として欧米を旅し、独創的な発想で最先端の飛行機づくりに取り組んだ。しかし、最先端の技術とは、軍事関連のものである。「銃をつけなければ軽くなる」旨の発言があるように、彼の飛行機は軍の要求を満たすことによってしか成立しない状況だった――。

巨匠・宮崎駿が最後に手がけた長編アニメーション。宮崎監督もまた、飛行機に憧れ、その情熱を漫画やアニメーションに注いできた。「創造的人生の持ち時間は10年」との言葉の真意は何だろうか。

飛行機をマニアックにみていくことと、アニメーションにのめり込んでいくこと。夢と現実のなかで、宮崎監督が抱く現代への危機感のようなものを感じる。ファンタスティックな世界を創り続けてきて、最後の長編が『風立ちぬ』であったことの意味は何なのか、ゆたかな想像力をもって受け止めておきたいものである。子どもたちが夢を語り、前を向いて未来へ歩をすすめられるとはどういうことかと、私は考えさせられた。(山口 渉)

3/25(土)
ベルブホール

次回特別上映会は **湯を沸かすほどの熱い愛**

(監督：中野量太監督 / 主演：宮沢りえ) を上映予定です。
中野量太監督のトークあり (予定) お楽しみに!

第17回 TAMA NEW WAVE コンペティション受賞結果

第17回 TAMA NEW WAVE コンペティションの受賞結果は下記の通りとなりました。おめでとうございます。

グランプリ:

『さよならも出来ない』松野 泉監督

特別賞 (多摩商工会議所 会頭賞):

『夜明けの行灯』佐々木竜彦監督

ベスト男優賞:

木村知貴氏 (『トータスの旅』)

ベスト女優賞:

土手理恵子氏 (『さよならも出来ない』)



©2016 TAMA CINEMA FORUM

お知らせコーナー

実行委員募集!

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2017年11月18日～11月26日に開催予定の第27回映画祭 TAMA CINEMA FORUM を一緒に作る実行委員を募集しています! 興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか?

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい... など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

4月16日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また、説明会は今後も5月に開催を予定しておりますが、日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。詳細はホームページ <http://www.tamaeiga.org/> をご覧ください。

支援会員制度のお願い

当映画祭と一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。

ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員] 一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会 (ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①: 映画祭チラシ送付

特典②: 映画祭パンフレット贈呈

特典③: 特別上映会割引 (当日チケットを、支援会員特別価格に。上映会は2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

シベ超ニュース

今年こそはシベ超の新作はできるのでしょうか?

毎年同じことを書いている気もしますが、気長に待ちたいと思います。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org

@tamaeiga (最新情報をフォロー) www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)